

合理的な意思決定能力を高める社会科学学習指導方法の研究

- 多面的・多角的な考察を通して -

みやき町立中原中学校 教諭 野田 英樹

要 旨

社会科では、資料を基に社会的事象に対して的確な判断を下す能力、つまり合理的な意思決定能力の育成が求められている。そこで、生徒一人一人が客観的なデータに基づく根拠を比較・検討しながら意思決定ができるように、多面的・多角的な考察を行う場を取り入れた学習指導方法の研究を行った。

その結果、生徒たちは級友とのかかわりを広げていきながら、学習活動に意欲的に取り組んだ。その過程で、客観的なデータに基づく根拠の重要性を感じ、それらに基づく価値的判断に加え、現実的な提案や代替案の作成などの実践的判断を行うことができるようになった。

<キーワード> 相互交流(二人組・班) マトリックス(一覧表)の活用 立場討論

1 主題設定の理由

社会科教育の究極の目標は、公民的資質の基礎を養うことである。学習指導要領には「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」とある。しかし、社会の現状を見ると、地域コミュニティの希薄化や若年層の投票率低下など、公民としての意識の欠如が見られる。このような現状は、断片的な知識を教え込む講義形式の授業を多く行い、適切な課題を設けて行う学習等を余り実施せずにきたことに、その一因があると考えられる。知識・理解偏重の学力から思考・判断や技能・表現、関心・意欲・態度を含めた基礎学力を、確実に身に付けさせる時に来ていると言える。

生徒の興味・関心を喚起する社会的事象から学習課題を設定し、その解決を図るための追求活動を行わせることは、基礎学力を身に付けさせる有効な方法とされる。さらに、学習課題に対して生徒一人一人に意思決定を行わせることで、基礎学力を総合的に身に付けさせるとともに、民主的な社会を形成していこうとする態度へとつなげることが可能になると考えられる。意思決定を行わせる際は、生徒個人の感情や経験など主観に基づくのではなく、客観的なデータに基づくように多面的・多角的な考察を行う場の設定が考えられる。一つの社会的事象でも、様々な側面や立場から考察させることで根拠を相対化させ、合理的な意思決定を行わせることができると考える。そこで、本研究においては、多面的・多角的な考察を行わせることにより合理的な意思決定能力を高めることが可能になると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

社会的事象に対して多面的・多角的な考察を行わせることにより、合理的な意思決定能力を高める学習指導方法を明らかにする。

3 研究の仮説

自分とのかかわりの深い社会的事象を追求する過程で、次の手立てを取り入れた多面的・多角的な考察を行えば、より合理的な意思決定ができる生徒が育つであろう。

相互交流(二人組・班)の段階を踏ませることで、個人の意思を吟味・修正させる。

多面的(側面)・多角的(立場)な視点を一覧表にした、マトリックスを活用させる。

立場討論をさせ、個人の最終的な意思を決定させる。

4 研究の内容と方法

文献・研究紀要等を通して、合理的な意思決定能力及び多面的・多角的な考察に関する理論研究や先行研究の調査を行う。

多面的・多角的な考察を取り入れた単元の開発を行い、検証授業を通してその有効性を探る。

理論研究や先行研究を基に、合理的な意思決定能力の高まりを測る評価方法を考える。

5 研究の実際（文献による理論研究等）

(1) 合理的な意思決定能力について

民主主義社会では、主権者である個人の意思決定がすべての決定の基礎となる。それが、集団での合意形成、ひいてはすべての人々の生活にかかわることになる。そのため、社会にとって利益となる解決策について考え、意思決定できる能力を高めることが重要になる。小原友行は、合理的な意思決定能力を「問題場面での自己の行為を科学的な事実認識と反省的に吟味された価値判断に基づいて合理的に選択・決定するために必要な能力」⁽¹⁾と定義している。それは、客観的な複数の根拠を基に未来を予測し、適切に判断できる力とも言える。合理的な意思決定は事実認識を行ったうえで、価値的判断、更に実践的判断を行うという3つの段階を踏む(図1)。

ア 事実認識

社会的事象を理解する段階。この段階で、客観的なデータを適切に収集・選択・活用し、判断するための根拠をもつ。複数の根拠を比較・検討することが、合理的な意思決定を生む鍵になる。

イ 価値的判断

事実認識に基づき、社会的事象に「よい・悪い」「すべき・すべきではない」「望ましい・望ましくない」というような、価値付けや評価を行う段階。

ウ 実践的判断

実際の状況に配慮して「何ができるか」「より望ましい解決策は何か」を、事実認識と価値的判断に基づいて判断する段階。より実現の可能性が高い提案や、代替案の作成などがこれに当たる。

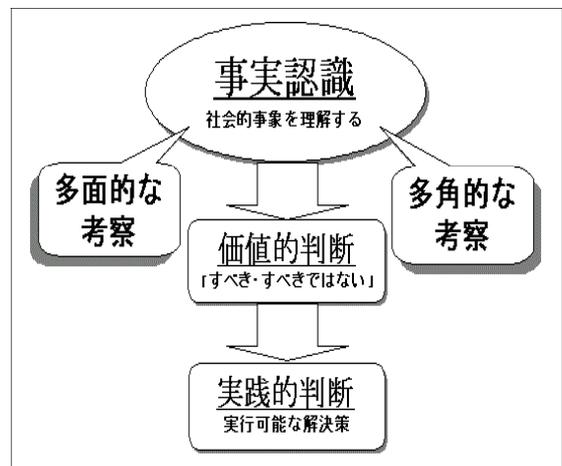


図1 合理的な意思決定

(2) 多面的・多角的な考察について

多面的とは社会的事象そのものがもつ特性の多様さであり、多角的とはその社会的事象にかかわる立場の多様さである。学習指導要領の教科及び三分野の目標に「諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し」と記されており、公正に判断するために必要な要素である。個から小集団、そして、全体へと広がりのある段階を踏んだ多面的・多角的な考察を行わせることで、より客観的な複数の根拠をもたせることができると考えた。具体的には、次の3つの手立てを取り入れ、次頁図2のように構成した。

ア 相互交流(二人組・班)

学習課題に対して最初に各生徒がもった考えを、まず二人組で意見交換させる。級友の考えを知ることで、自分との共通点や相違点に気付かせる。特に自分とは違う意見を大切にさせ、それを基に自分の考えを吟味・修正させる。次に、班で意見交換させる(p.50資料1参照)。その際、吟味・修正するために必要な1回目の意思決定が必ずできるように、机間指導を行い助言を与える。学級全体で行う立場討論の前に、小集団で個人の考えを吟味・修正する場となる。

イ マトリックス(一覧表)の活用

学習課題にかかわる3つ又は4つの立場からの根拠を、まず大きくプラス・マイナス面で、更に考察する視点ごとに細かく整理したマトリックス(行と列からなる表。p.50資料2参照)にまとめる。マ

トリックスを活用すると、すべての立場から出た根拠を一目で把握でき、視点ごとの比較・検討が容易にできる。マトリックスを作成する際は、まず学習課題にかかわりのある立場を教師が複数設定し、生徒に自分の立場を決めさせた上で各立場から学習課題について考察させる。その際、データを基に根拠(事実及び推論を含む)を導き出させる。これらの活動を行う過程で、資料収集・選択・活用能力の育成を図ることができる。

ウ 立場討論

学習課題について、各立場に分かれて討論を行わせる。討論を行うリーダーだけでなく、聴衆の生徒(フロアー)にも主張の根拠を吟味させることで、根拠を相対化していく。学習過程の最終の段階であり、より多面的・多角的に考察させることで、合理的な意思決定能力を高めたい。



図2 3つの手立ての流れ

(3) 単元の指導計画(5時間)

	主な学習活動	手立てとその主なポイント
1	既習事項(学習課題にかかわる)を確認する。 学習課題(教師が提示)を知る。 1回目の意思決定を行う。 相互交流(手立て1) を行う。	相互交流の場面では 学習課題についての、概略的な資料を提示する。 級友との共通点及び相違点に、それぞれアンダーラインを引かせることで、差違を明確にさせる。
2	学習課題にかかわる立場を考える。 班を作り、班ごとに立場を1つ決める。	マトリックスの活用場面では 立場については、多角的に考察させることで根拠の相対化を図ることができるように、複数(3~4つ)設定する。 予想される根拠をグループ化し、細かい視点を設定する方がマトリックスを作成しやすい。 細かい視点については、発問を繰り返す中で生徒に気付かせ、視点を意識しながら資料選択を行わせる。 教師は、根拠の重要度で、取り上げるか否かを判断する。
3	立場ごとに資料の選択・活用を行い、根拠を3つ程度作る。 立場ごとに主張をまとめる。	
4	マトリックス(手立て2) を活用する。 2回目の意思決定を、調査活動を行った立場を離れて行う。	
5	立場討論(手立て3) を行う。 3回目の(最終の)意思決定を行う。 クラス全員の意思決定の概要を知る。  写真1 立場討論の様子	立場討論の場面では 前半は、互いの主張(アピール)とそれに対する反論を加えさせることで、根拠を相対化させ、十分に吟味させる。 後半は、事前に確認しておいた聴衆の生徒(フロアー)の建設的な意見や批判的な意見を取り上げ、より実際の状況を考慮した解決策へと生徒の意識を高めていく。 教師は、事前に社会科通信で級友の考えを知らせたり、各生徒の意思決定の文章に肯定的なコメントを添えたりするなど、雰囲気をも高めるための手立てをとる。

- ~ フォーマット ~
1. 主張 (3分ずつ)
 2. 意見・反論 (3分ずつ)
 3. フロアーから (4分)
 4. 相談タイム (1分)
 5. 再主張 (3分ずつ)

6 研究の実際 (検証授業を通じた実践的研究)

(1) 公民的分野での実践 平成16年11月 3年生で実施

ア 単元 「政府の仕事と租税 ~消費税率の引き上げについて考えよう~」

イ 検証授業の概略

2007年からの消費税率10%への引き上げ論について、財政状況及び基幹税としての役割を踏まえさせながら、多面的・多角的な考察を通して消費税の在り方を考えさせた。

ウ 検証の結果と考察

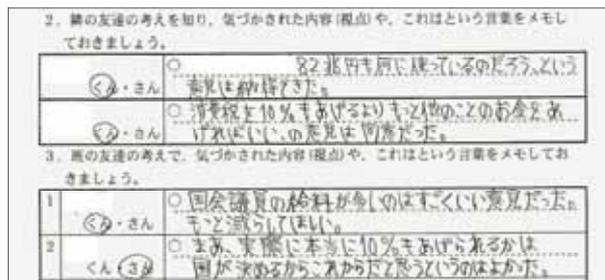
(ア) 手立て1 相互交流(第1時)

学習課題の提示直後に行われた1回目の意思決定では、感情(面倒くさいなど)や経験を根拠に判断をした生徒が、30人中15人見られた(表1)。この時点では、学級全体として、合理的な判断ができていたとは言えない。その後、資料1のワークシートを用いて相互交流を行い、2回目の意思決定を行なった結果、感情や経験を根拠に判断をした生徒が、15人から7人に減少した(表1)。このことは、級友の考えを基に自分の考えを吟味することで、恣意性や独善性の排除を行い、価値的判断に至ったためと思われる。

表1 手立て(3つ)の有効性

	視点の広がり(人)			考えの深まり(人)	
	根拠1つ	根拠複数	感情・経験	価値的判断	実践的判断
1回目意思決定	14	2	15	18	9
相互交流後	14	2	7	23	11
マトリックス後	6	19	3	25	12
立場討論後	6	17	1	27	22

資料1 相互交流時のワークシート



(イ) 手立て2 マトリックスの活用(第4時)

多角的に考察させるための立場として、国民経済の主体である政府、家計、企業の3つを設定した。多面的に考察させるための視点としては、税金とかかわりのある政治・経済面、生活面を設定した。資料2のマトリックスを活用したことにより、客観的なデータに基づいた2つ以上の根拠から判断する生徒が、2名から19名に増加した(表1)。他の立場の根拠を判断材料に加え、比較・検討した上で、判断したものと推察される。

資料2 マトリックスの一部(政府・家計)

		立場(多角)	
		政府	家計
視点(多面)	政治経済	税率が上がる分、国に入る税収入が増える。少しずつ、705兆円ある国の借金を返せるようになる。	みんなから少しずつ、公平に集めるしくみなので、賛成してよい。
	生活	社会保障のサービスが充実する。	安心して老後をすごせるなら、かまわない。
	政治経済	内閣の支持率が、下がる可能性がある。国民がものを買わなくなり、景気が悪くなる。	消費税は間接税なので、収入の少ない人にとって税率が上げられるのは、とても大変。
	生活		消費税率が上がった分、支出が増え、生活が苦しくなる。企業のもうけが減る分、給料が減る。

(ウ) 手立て3 立場討論(第5時)

立場論を行うことで、政策実施に伴う社会の変化や実現性を考慮できる実践的判断に至った生徒が、12名から31名へと増加した(表1)。具体的には、収入に応じて課税する累進課税制の導入や、目的税化、複数税率制を求める生徒が増加した。また、自分の将来とのかかわり(就職する際の景気の状態など)を考えた内容も、見られるようになった。この要因としては、立場討論の後半においてフロアーの生徒が「10%に一気に引き上げられては、高齢者を中心に生活が苦しくなることが予想される。もう少し配慮できないか」あるいは「税率の引き上げは、財政赤字の解消が主な目的のはずだが、社会保障にまで本当に分配することができるのか」等の現実的な意見を提案したことが考えられる。立場討論を行うに当たっては、マトリックス活用後の意思決定内容を、教師が十分に把握し、適宜進行にかかわり方向付けを行うことで、生徒の判断をさらに高めることができると考えられる。

(2) 地理的分野での実践 平成17年1月 2年生で実施

ア 単元 「地域間の結び付きの特色をとらえよう ~みやき町と周辺都市との結び付き~」

イ 検証授業の概略

みやき町の発展を目指した、周辺都市(久留米市・鳥栖市・佐賀市・福岡市)との結び付きについて、多面的・多角的な考察を通して優先すべき建設ルートを考えさせた。

ウ 検証の結果と考察

(ア) 手立て1 相互交流(第1時)

学習課題の提示直後に行われた1回目の意思決定では、4つのルートの中から1つを選択させる形式を取ったためか、生徒全員が、価値的判断を行うことができた。しかし、経験やイメージなど、主観的な根拠を基に判断を行った生徒が約7割いた(図3)。その後、相互交流を行ったが、学習課題に関するデータ不足のためか、判断する際の根拠に、顕著な変化は見られなかった(図3)。生徒一人一人の考えが高まった立場討論後に相互交流を設定した方が、効果は大きいと考えられる。

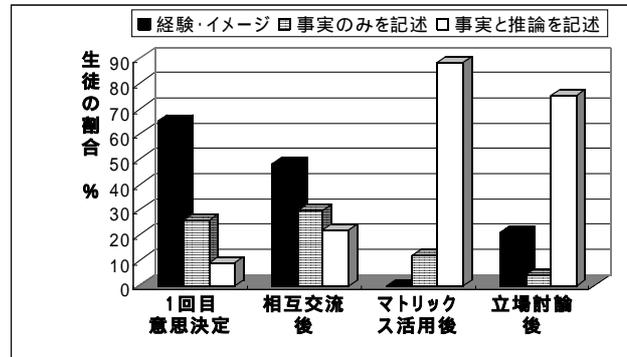


図3 根拠の質の変化

(イ) 手立て2 マトリックスの活用(第4時)

多面的に考察する視点としては、道路の持つ特性から、「町外へ行く」と「町内に呼び込む」の2つを設定した。さらに、その2つの視点を「通勤・通学」や「生活・文化」など、計6つに細分化した。立場は、4つのルート(久留米市・鳥栖市・佐賀市・福岡市)で設定した。活用後には、主観的な根拠及びデータから読み取ることができる事実のみを根拠にした生徒の割合が減り、客観的なデータと推論を結び付けた説明的な文章を書いた生徒の割合が増加した(図3)。また、2つ以上の根拠をもって、価値的判断を行う生徒も増加した。

(ウ) 手立て3 立場討論(第5時)

住民の利便性を重視したこれまでの意思決定と比較すると、立場討論後には、実例を基にした町の発展を図るプランを書いた意思決定が増えてきた(次頁表4)。このことは、単に対象となる都市の特徴に注目するのではなく、討論を行うことで、みやき町とのかかわりを考えるようになった結果だと考えられる。ただし、数個の選択肢から解決策を1つに絞る学習課題では、多面的・多角的な考察が解決策を選択するためのものになりがちで、実践的判断にまで高めることが難しかった。その点で、実践的判断を迫る学習課題としては、賛否を問う政策論題の方が適していると思われる。このことから、地理的分野での学習課題は、賛否を問う政策論題ではあっても、視点の設定や学習方法を地理的な見方・考え方に留意することで、実践的判断にまで高めることは可能と推察される。

資料3 立場討論の実際

～ **他の立場への主な意見** ～
 「福岡市への通勤・通学者は、4市の中で一番少ない。鳥栖まで道路を拡げてJRで行った方がよいのでは？」 「福岡市への買い物客が増えると、地元の商店が衰退するのでは？」 「ベッドタウン化すると、土地の値段が上がったり人のつながりが弱くなって暮らしにくくなるのでは？」など

～ **新町発展に関するプラン** ～
 福岡県筑紫野市を例に、バイパスが開通すれば通行量・人口の増加・小売店の進出が見込める！ 三瀬村を例に、福岡市とつながれば、休日を中心に観光客の増加が見込め、農産物等の売り上げ増が期待できる！ ベッドタウン化すれば、町の人口も増え、役場に入る税収も増加する。地元の小売店の売り上げも伸びていくだろう！ 中原・北茂安・三根町それぞれの良さ(例えば、自然の豊かさ)を生かした町づくりを進めていくべき。アスパラガスやイチゴ・トマトなど、農産物の販売や白石焼きも活用して、観光客を集めよう！

資料4 抽出生徒Bの意思決定の変容

一回目	福岡市だと、いろいろな会社や企業など多くの仕事場があるので、早く行き来ができるから。それに、遊びに行く時などに便利だから。
交流後	最初は福岡だったけど、やっぱり県外の中でも近い久留米からルートを作り、視野を広くしていきながら発展し、徐々に福岡市とルートが作れたらいいと思います。
一覧表活用後	最初、久留米とのつながりを築けば、通勤・通学の人たちが便利になると思います。県外でも最も近い所からルートを作り、そこで発展すれば、少しはみやき町の様子も変わっていくと思います。そして、そこから福岡市とかかわっていけば、みやき町はさらに変わっていくと思います。
立場討論後	久留米にルートを作れば、JRや西鉄を使って福岡市内や自分といった県外にも早く移動できるし、聖マリアなどの病院にも早く行けるので便利だと思う。ベッドタウン化すれば町民も増えるし、税金やお店の売り上げも伸びていくから、みやき町にとってはプラス面になると思う。そして、みやき町にたくさんの人たちが入ってきて、もつとにぎやかになるし、農業などの発展にもつながると思うから。

地理的分野における実践では、合理的な意思決定能力の高まりを、判断した際の根拠の数のみではなく、質つまり社会的事象にかかわる重要度も加えて測ることとした(表2)。表3及び表4は、表2を基準に抽出生徒と学級全体の判断力の変容をまとめたものである。表4は、マトリックスの活用後に段階3へ、立場討論後に段階4へと判断力の高まった生徒の増加を示しており、手立てが有効であったことを示している。

表2 文章分析基準(判断力の高まり)

内容		評価		久留米市ルート・佐賀市ルート・鳥栖市ルート・福岡市ルート	
データあり	実践的判断	4	A	「みやき町」を発展させるための、具体的な提案(現実的なプラン)が書けていれば、プラス1段階で評価を行う。 例)三瀬村に観光客が増えたように、中原の綾部神社や三根・北茂安町の自然をもっとアピールして、都市住民の安らぎの場を作れば、観光客も増えるだろうしぼた餅やいちご・アスパラなど地域の特産物を売ることで、売り上げも伸びると思う。など ただし、抽象的な記述「人が来るかもしれない」などは、その対象とはしない。	
	重要度の高い根拠	3	B	「みやき町」の発展と結びつく根拠。他の都市と比較した際に、有利な点をデータに基づいて説明できる根拠。 例)鳥栖市からの通勤・通学者が 人と一番多いので、鳥栖市との建設を優先すべき。など	
	重要度の低い根拠	2	B	「みやき町」の発展とは結びつかない根拠。その都市固有の特徴や、事象のこと。 例)大きなイベント「バルーンフェスタ」があり、毎年たくさんの人が集まっているから。など	
なし	経験イメージ	1	C	データに基づかず、これまでの自分の経験や、都市に対するイメージを根拠にした段階。 例)従兄弟が佐賀に住んでいるのでよく遊ぶのですが、行ったり来たりするのに道が混んでいたりとすると大変だから。など	

この表の作成に当たっては、小原友行(広島大学大学院教授)の理論を基にした。

表4 学級全体の判断力の変容

段階	その段階に達した生徒(%)			
	1回目意思決定	相互交流後	マトリックス後	立場討論後
4	0	0	0	20
3	8	21	81	48
2	4	4	12	16
1	88	75	7	16

表3 抽出生徒Bの判断力の変容

1回目意思決定	相互交流後	マトリックス後	立場討論後
1	1	3	4

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

3つの手立てを通して多面的・多角的な考察を行わせた結果、意思決定を行う際の根拠が、経験やイメージなど主観に基づくものから、客観的なデータに基づいたものへと質的に変化すると同時に、量的にも複数の根拠を挙げる生徒が増加した。また、価値的判断に加え実践的判断に至る生徒も増加し、合理的な意思決定能力の高まりが見られた。公民的分野・地理的分野での実践ともに同様の結果が得られたことから、それぞれの分野の見方・考え方に留意すれば、3つの手立てを通じた多面的・多角的な考察は、合理的な意思決定能力を高める有効な学習指導方法であることが実証できた。

(2) 今後の課題

まず、合理的な意思決定能力の育成に適した学習課題を吟味し、年間指導計画に位置付けることである。その上で、資料活用を中心とした技能・表現力、思考・判断力を一単位時間の中で系統的に育成していく学習指導方法を考えていきたい。特に、資料から読み取ることができる事実を基に、推論を導き出す学習指導を継続して深めていきたい。さらに、1つの資料を多角的にとらえたり、複数の資料を関連づけて事実を組み立てる効果的な学習指導方法を探っていきたい。

《引用文献》

(1) 森分 孝治 片上 宗二編集 『重要用語300の基礎知識 社会科』 2000年 明治図書 p.69

《参考文献》

- ・ 小原 友行 「社会科における意思決定」 『社会科教育学ハンドブック』 1994年 明治図書
- ・ 岩田 一彦 『社会科教育のニュー・パースペクティブ』 2003年 明治図書